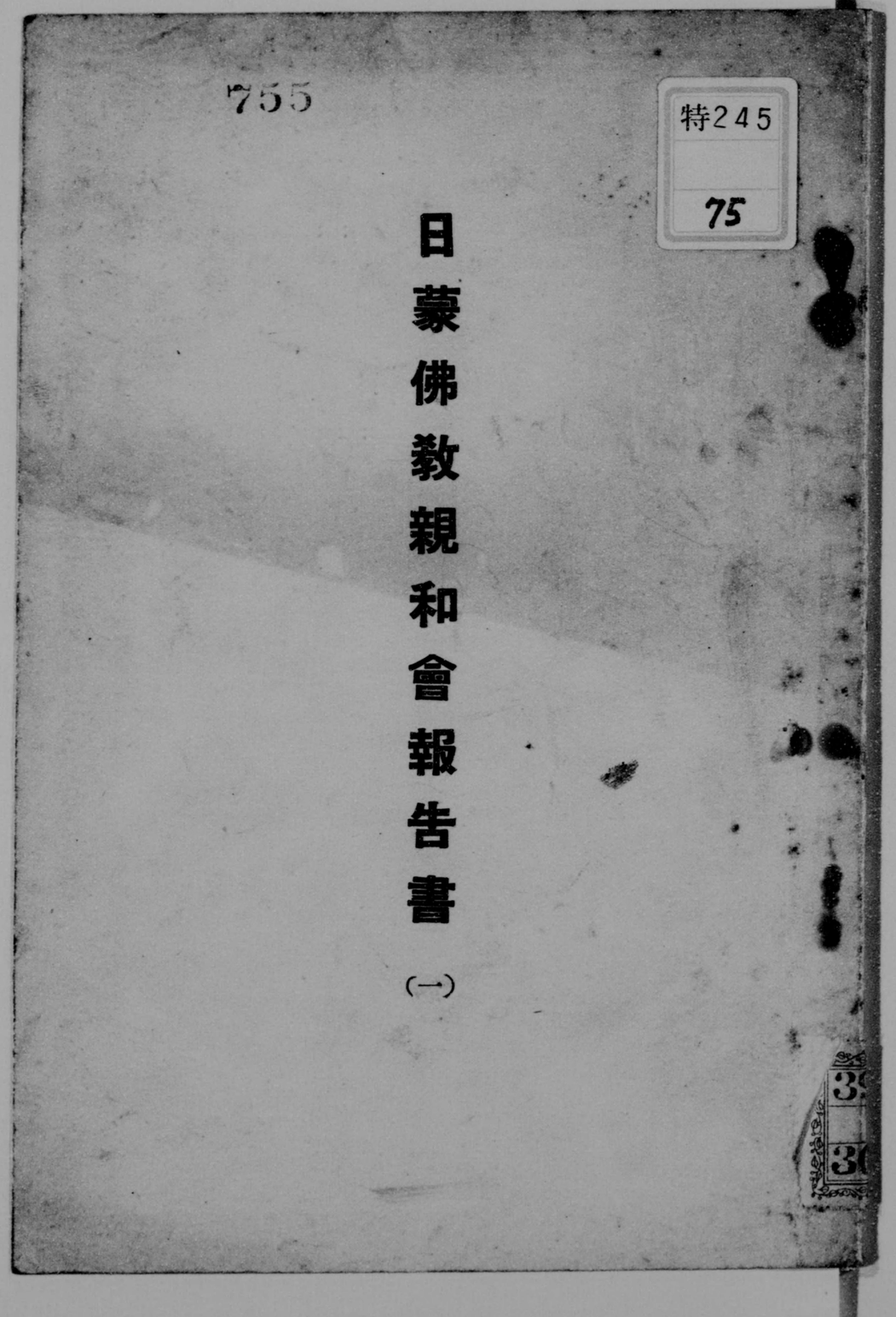


0011173000

0011173-000

特２４５－７５

日蒙仏教親和会報告書

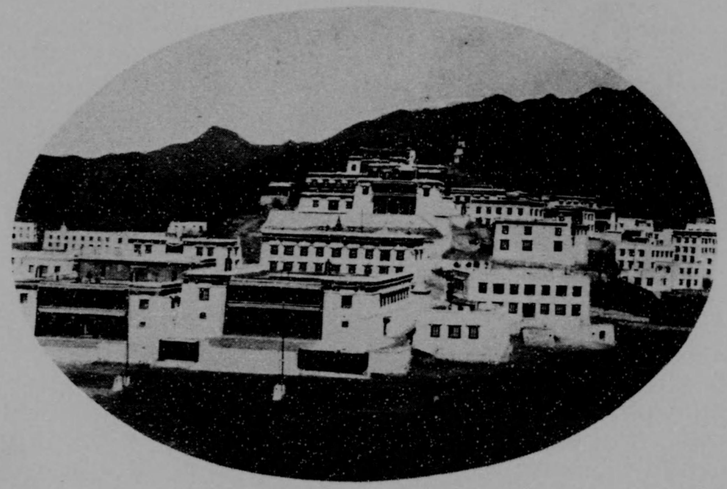
日蒙仏教親和会

1

昭和１４

ABJ

特245
75



蒙古喇嘛廟

蒙古平原

副會長
佐々木教純僧正

會長代理
東京本部長　渡邊哲信

副會長
酒井日慎大僧正

ルミン・グゲン
メリゲン・グゲン
デロワ・ホトクト（營古部長）
チヤガン・ググン
橋本主事
細川主事

目次

蒙古喇嘛廟
蒙古平原
日蒙佛教親和會趣意書……一
日蒙佛教親和會宗旨書……二
日蒙佛教親和會蒙文宗旨書
日蒙佛教親和會規則書
日蒙佛教親和會顧問及役員……七
日蒙佛教親和會創立に際して……九
日蒙佛教徒提携を祝す……一一
兩國親善は信仰的提携……一二
日蒙兩民族の相同點に就いて日蒙佛教親和會の將來を祝す……一五
蒙古の喇嘛教……二三
日蒙佛教親和會經過……三〇
本會費用報告……三一
滯邦喇嘛留學生一覽表……三一

日蒙佛教親和會趣意書

東亞新秩序建設ニ於イテ今ヤ佛教ノ使命益々重大ナルヲ覺ユル秋、我等先覺者既ニ日本國際佛教ノ研究設置ヲ見、日華佛教ヲ說キ、或ハ日印佛教ノ親善ヲ企ルニ至ル、今ヤ蒙古佛教徒ハ日本佛教ヘノ期待大ナルモノアリ、日本佛教徒亦暖カキ親和ト親切ナル說明トヲ以テ吾等ニ最モ近キ蒙古佛教徒ニ接セザル可カラズ。一般的ニ彼ノ我ヲ知ラズ我亦彼ニツキ不明ナル點多々アリ。即チ相互佛教ヲ理解シ民族的理解ニ迄及ブベキナリト信ジ、此處ニ日蒙佛教親和會ヲ設置スルモノナリ。

日蒙佛教親和會主事

額勤恒格　委雲達賴　重松龍寬

內藤潮邦　奈拉爾圖　雲丹桑布

札奇斯欽　橋本光寶　細川澄翠

草

日蒙佛教親和會宗旨書

於東亞新秩序建設或五族協和之東洋新態勢下。正爲我等佛教徒使命、愈益重大之時期在我們之先知者中、既已有倡出日華佛教、或說置國際佛教之研究、或竟有企圖日印佛教之親善論說者而今正值蒙佛教、向日本佛教之期待實大之期、卽日本佛教徒亦有以暖溫親和親切之說明而接近、我最近之蒙古佛教徒之必需。

於一般上、實多有彼不知我而我亦不知彼之處。既覺欲互相理想佛教、而亦必須造成民族諒解。乃說此日蒙佛教親和之宗旨也。

（目的）
一、目的　本會ハ日本ニ於ケル佛教ノ歴史的研究ト現狀トノ相互ニ紹介ヲ以テ兩國親和ヲ企ルニ至ヲ目的トス。

（事務）
一、事務　本會事務所ハ日本適當ノ地ニ置キ會長ヲ以テ之ヲ定ム

（名稱）
一、名稱　本會ハ日佛佛教親和會ト稱ス

（本部）
一、本部　本會ハ日本東京市京橋區築地三丁目築地本願寺内ニ置ク

（支部）
一、支部　本會支部ハ日本適當ノ地ニ於テ會員ノ申込ニ依リ會長ノ認可ヲ得テ之ヲ置ク

（會員）
一、會員　本會ハ日佛兩國ノ佛教徒ニシテ本會ノ趣旨ニ賛同シ入會ヲ申込ミ會長ノ認可ヲ得タル者ヲ以テ會員トス

（會費）
一、會費　會員ハ毎年金壹圓ヲ會費トシテ納ムルモノトス

（役員）
一、役員　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　壹名
副會長　壹名
理事　若干名
評議員　若干名
幹事　若干名

（役員ノ選擧）
一、役員ノ選擧　會長ハ評議員會ニ於テ會員ノ中ヨリ之ヲ選擧ス
副會長ハ會長ノ指名ニ依リ理事會ニ於テ之ヲ定ム
理事ハ會員ノ中ヨリ評議員會ニ於テ之ヲ選擧ス
評議員ハ會員ノ中ヨリ會長ノ指名ニ依リ之ヲ定ム
幹事ハ會長ノ指名ニ依リ之ヲ定ム

（役員ノ職務）
一、役員ノ職務　會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
理事ハ會務ヲ執行ス
評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ會務ヲ評議ス
幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

（役員ノ任期）
一、役員ノ任期　役員ノ任期ハ壹箇年トス但シ再選ヲ妨ケス

（會議）
一、會議　本會ノ會議ハ總會及評議員會トス
總會ハ毎年一回之ヲ開ク
評議員會ハ會長ノ必要ト認ムルトキ之ヲ開ク

（會計）
一、會計　本會ノ會計ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

（附則）
一、附則　本規約ハ日佛佛教親和會ノ成立ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一條）

次ノ草案ノ

ノ如キ

(第一案)

一、要、甲、本會費用ハ賛助員ノ醵金ノ外ノ

一、日、裏面ノ通ノ諸日諸教ニ際シ親善連絡ヲ行フ

一、毎月若干回無料ニテ

一、毎年一回報告書ヲ

事業、本會ハ左ノ事業ヲ行フモノトス

一、

一、

一、

一、

(第二案)

一、

一、

一、

一、

一、

(第一案)

一、本部　本會ハ日本東京市京橋區築地三丁目築地本願寺内ニ置ク

一、名稱　本會ハ日蒙佛教親和會ト稱ス

約

日蒙佛教親和會

顧問

（順不同）

大谷瑩潤	蒙古聯盟自治政府參議
大谷照乘	眞宗本邊派管長
酒井日愼	滿洲山西省五台山鑾隆頂
伊藤道海	眞宗高田派東大教授
都克爾蘇龍	日蓮宗大本山法華經寺貫首
大森亮順	眞宗本派本願寺東京所長
佐々木教純	東京外國語學校教授
上野舜穎	淨土宗執綱
吳鶴齡	曹洞宗總務
察牟格根	文學博士
本田惠隆	大谷派東京所長
安田力	日蓮宗總監
廸魯瓦胡圖克圖	
木邊孝慈	
薩莫沙胡圖克圖	
長井眞琴	
宇都宮日網	
朝倉曉瑞	
施雲鄉	
里見達雄	
高階瓏仙	
高楠順次郎	
常盤大定	
塩出孝潤	

眞言宗智山派宗務	倉持秀峰
同　豐山派宗務長	久保野太運
北京雍正宮東華園後井高盟佛舍	白星垣喇嘛
立正大學長	清水龍山
駒澤大學長	立花俊道
東洋大學長	大倉邦彥
東京帝國大學教授	宇野圓空
京都帝國大學教授	榊亮三郎
蒙聯自治政府東京辦事處長	久光正男

評議員（順不同）

本願寺副輪番	玉川義隆
蒙盟自治政府參議	察汗格根
元北京順天時報社長	渡邊哲信

京都帝國大學講師	寺本婉雅
東京帝國大學教授	字井伯壽
大正大學教授	河口慧海
東北大學教授	多田等觀
龍谷大學教授	明石慧達
大谷大學々長	大須賀秀道
龍谷大學々長	足利瑞義
龍谷大學々監	增山顯珠
曹洞宗總持寺盛院	孤峰智璨

（諸氏外目下交涉中）

佛聯主事	祥雲晚成
元蒙軍顧問陸軍中佐	金川耕作
明和會主事	中川吉太郎

蒙聯參議長秘書官	札奇斯欽
元成渓高等學校長	淺野孝之
知恩院庶務部長	小林義道
蒙聯自治政府參議	魯明格根
善隣協會常任理事	大島豐
蒙聯自治政府參議	梅力更格根
大正大學教授	久野芳隆
日運宗東京協議員	沖鳳龜
立正大學教授	渡邊瑞巖
立正大學教授	布施洪岳
讀賣新聞宗教記者	吉村貫練
深川柔道場主　柔道五段	井上寬政

日蒙軍供養道場主　劍道五段	百井政明
深川佛教會々長	狩野獲隣
立正大學幹事	稻葉文海
同盟通信社會部長	岡村仁一
讀賣新聞航空部長	鴇澤幸治
大谷光瑞氏秘書	轉法輪公祐
滿洲國大使館理事官	烏雲達賴
察盟上都旗副參領	額勅恒格
晋北政府民政廳文教課長	重松龍寬
滿洲國蒙政部調査部	奈拉爾圖
蒙聯內務所補佐官	內藤潮邦
蒙聯自治政府秘書官	旺克爾札布

主事

細川澄翠　蒙古聯合自治政府秘書　札奇斯欽
橋本光寶　滿洲國吐默特旗長　雲丹桑布
伊藤現芳

會長（代理）　渡邊哲信
副會長　酒井日愼
副會長　佐々木教純

東京本部長　渡邊哲信
常任主事　雲丹桑布
〃　細川澄翠
〃　橋本光寶

蒙古本部長　廸魯瓦胡圖克圖
副部長　梅力更格根

文化時報社横濱支局長
外務省調査部員
智恩院庶務部主事

日蒙佛教親和會創立に際して

東京本部長　渡邊哲信

東亞新秩序建設の初期、日蒙兩民族の上に流れる歷史上の源動力たる、佛教的精神の聯繫として、玆に日蒙佛教親和會の誕生を見た事は、東亞の民族上非常な意義あるものと思ふ。

今より三十數年以前余は、大谷光瑞師に從ひ、遠く中央亞細亞より新疆を跋涉、更に甘肅を經て北京に至る大旅行を決行した事を想起し併せて、諸民族の實狀と思想とを考察する時、當然起るべきものが起つたとの感が深い。

日露戰に於いて支那は日本を再認識すると共に、秩序と國家の整備とは良く大國と同樣なる働を爲得る事を知つた。必然的に佛教界にも改革論が起り、支那佛教徒は、其の具體的方法に關して中島裁之氏の意見に從ひ、日本佛教の指導を要請する事とな

つた時に、武田篤初（西本願寺執行）氏の渡支となり、支那四百余洲の佛教代表が凡て上海に集つた事があつた。然るに武田氏の說明も良く中國人の理解する處とならず百聞一見に如かずとして、遂に日本佛教視察の結論となり、此處に余は、覺先、源一兩僧を伴ひ、歸朝するに至つた。併乍之と前後して抗蘇兩洲東本願寺三十六ヶ寺歸依事件が惹起した。卽ち改革に伴ふ支那讀書人と僧侶との相剋は、引いて此等寺院が東本願寺に歸屬し、日本國旗を揭揚して其の難を避けた事件があり、此の直後の事として兩僧留學や西本願寺の款待を誤解し、何等か政治的意圖に基くものとして、遂に此の佛教提携は失敗に終つた事は、良く明記して置かねばならぬ。

其後東本願寺田中含身居士の支那喇嘛兩僧の改革並に提携は、其の國際的な疑惑を生じた爲に之亦水泡に期し、改革は支那蒙古其自身の手でと云ふ聲に變化するに至つた。かくの如き歷史的事實は、全く彼我佛教の誤解に基くものであつて、眞に佛教の十方衆生觀に依據するならば、其間何等か政治的意味を有せず、かゝる疑惑は發生する筈はない。

今日蒙佛教親和會結成に當つて、何よりも此等の點に留意し、一切の疑惑の外に立ち、然かも親切なる指導と心からの握手とは、必ずや東亞新秩序建設の文化的役割を果得るものと考へ、特に實踐に當る熱烈なる幹部諸氏の氣魄を以てすれば、其の目的達成も遠い將來では決して無いと確信する。

日蒙佛教徒提携を祝す

蒙古聯合自治政府駐日辨事處長　久光正男

生れるべくして生れ出たのが、この日蒙佛教親和會だつたと思ひます、佛教と蒙古と云ふ問題に就ては、我々素人にはピンと來ないものがありました、しかし、振り返つて考へて見ますと、斯の一代の傑僧、日蓮上人が法難に遭はれた處も、今から六百六十年前に元の使者杜世忠等五名が、時の幕府北條氏の爲めに誅戮せられた處も等し

く龍ノ口であつたとの事、之も何彼と奇しき因緣ではなかつたでせうか、私共佛教に限らず、宗教方面の事は何も判らないのでありますが、職を日蒙の政治、經濟、產業開發等の連絡に組する者と致しましては、此度の御企ては實に意義あるものと云はさるを得ないのであります、謹みて敬意を表する次第であります。

次に私共の地域に於きましても一昨年の事變直後、治安の安定致しました地方から察南、晋北、蒙古の順に自治政府の調整統合機關として、その蒙族聯合委員會とを打つて一丸とした、蒙古聯合自治政府が本年九月一日、張家口に出來上りまして、嚴かな式典が擧行されました、之と申しますのも豫から、日本帝國朝野を擧げての御指導と御援助との賜に外ならないのであります、そして蒙古政府と日本帝國政府及各種團體とも密接なる連絡を要しますので、之が連絡機關として本年一月、東京に駐在員として參り更に本年五月十四日、東京辨事處と又本年九月一日、駐日辨事處と改稱して今日に至り、不束乍私か初代の處長として勤務致して居りますから何彼と御指導御援助を頂くと共に、充分御利用下さいます樣此の機會に於て御願ひ致します。

兩國親善は信仰的提携

本會副會長　佐々木教純

今や皇國日本は興亞新秩序建設の爲め、政治產業各部門に亘り重大なる決意と計畫を以てその遂行に盡粹しつゝある折柄、我々日本佛教徒の負擔すべき國策の一端は奈邊に存するや。恐らく我々の現在の職務を最も有効且つ適切に嚴守することに在るであらう。徒らに新奇不要なる新事業に着手する如きは重々戒心すべきである。日蒙佛教親和會の如きも一見新奇事業の如く見ゆれども、その實、世の現實は將に此の事業の寧ろ遲きに失せる憾なきにしもあらざる狀態である。何となれば國境に制限せらるゝこと少き宗教家の任務の一つは、政治に先立ち爲政者をしてその立場を容易ならしむるに在ると思はれるからである。本會が佛教を通じて特に兩教徒がその信仰に立脚しての親善に努力すると言ふことは、兩國々交上只に有意義であるのみならず、又我

我佛教徒の任務であらねばならぬ。

茲に本會が第一回の報告を行ふに當り、本會が益々發展し、所期の目的に到達せんことを祈願して止まない次第である。

日蒙兩民族の相同點に就いて
日蒙佛教親和會の將來を祝す

蒙古聯合自治政府參議長秘書　札奇斯欽

民族と民族の間の親善はあらゆる方式で圖る事が出來るが、しかし利害關係に因つて出來た親善より、寧ろ共同信仰或は同一道徒に依つて出來た、親善の方は永くまで繼續する事が出來ると思ふ、だから佛教の博愛精神に基いて圖つた、親善は永久に繼けるであらう。

民族の同異に拘らず其間に色々な親善が出來るが、しかし人種文化歷史の異樣な民族との間により寧ろ、人種文化歷史の同樣な民族との間に本當の親善が出來易いと思ふ今日、日蒙兩民族の政治的同一方向及び經濟的協同合作は勿論、他の方面に於いても兩民族の一致點が澤山ある。その例として擧げれば、人種上に於いて同じ黃色人種は勿論、世界の各人種の中に初生兒の臀部にモンゴリアンボイントと云ふ黑い痣のあるのは蒙古と日本兩民族のみである、言葉に於いては兩民族の使つて居る文字が違つても言葉の順序即ち、文法は全然同樣である故同じウラルアルタイ語系に屬して居る家屋の形式に就いては、日本間と蒙古包が勿論形式が違ふが、併し室內構造に於いては日本間の上座と云はれる床の間のある部分は、殆ど蒙古包內の神座のある部分と本質上全然同樣である、信仰上に於いては、日蒙兩民族は全部の信者である、其上まだ天の崇拜と神社に等しい、オーボーの崇拜は殆んど日本人と變らない、歷史の特徵について日本には二千六百年の萬世一系天皇中心政治を行はれて來た歷史がある、蒙古

は成吉思汗が世界的蒙古大帝國を創立して以來、今日に至るまで蒙古の政治中心になつて來た主教者或は極少數の異姓貴族を除けば、全部の封建君主は皆成吉思汗の後裔である、勿論日蒙兩民族に影響する氣候及び地理環境が相當異つて居るにも拘らず兩民族の民族性には類似する處が不思議に多い、一番著しいのは正直と服從と短氣との三つである、以上の重要なる相同點の外まだ、白色を一番上品の色にするとか或ば相僕をやる時に東西兩方に分けるとかは、殆ど日本と變りがない種々の一致點があるから兩民族の間に本當の親善が出來易いと思ふ。

上述の色々の良い條件の揃つて居る畑には、正道四諦を基礎とする親和の種を栽培すればその收獲は必ず前途無量になると確信するものである、これを持つて日本佛教親和會の將來を祝す。

蒙古の喇嘛教

（報告）

一、喇嘛教と言ふ意味
二、喇嘛教の蒙古傳來
三、蒙古人の喇嘛教信仰
四、蒙古に於ける喇嘛教の現勢

むすび

一、喇嘛教と言ふ意味

蒙古は喇嘛教一色である、その喇嘛教は西藏に興隆した宗教である、蒙古人も西藏人も自らの宗教を喇嘛教と言はず佛教と呼び又左樣に信じてゐる、佛教と喇嘛教は果して同一宗教であらうか。

之を歷史的に觀察して見るに、喇嘛教の興起したのは前述の如く西藏であるが、西藏には元來ボン教と言ふシャマン教に類した國民的宗教が存在してゐた、西藏に輸入せられた佛教は已に印度に於て濕婆教に影響せられたものであり、且つ西藏に入りては在來のボン教と妥協して此處に西藏特有の佛教を釀成するに至つた、此を喇嘛教と言ふ故に本來の佛教と同一でないことは想像するに難くない、たとへ彼等が佛教徒だと自認してゐても、それは所謂喇嘛教徒であるのである。

又外觀上教義上からも喇嘛教は、所謂喇嘛教たるの要素を持つてゐることは忘れまない。然して喇嘛教と言ふ語を使用した所以のものは何か、喇嘛Bla-maとは教師、上人を意味する西藏語である、佛教に於て佛法僧の三寶を恭敬することは當然であるが喇嘛教に於ては僧が最も尊信せられ、佛・法はそれより一段下に置かれてゐる、僧のことを西藏語で喇嘛と言ふわけでなく、僧の中の上位にあるものを喇嘛と言ふのであるが、一般僧侶をも尊信して喇嘛と言ふことゝなつた、特に喇嘛を尊信することゝ、喇嘛(僧)の數が非常に多く、且つ集團生活をして居り支那人その他の外國人には喇嘛がよく眼につき、喇嘛々々と言ふ語が印象づけられ、何時の間にか「喇嘛を奉ずる教」と言ふ意味で喇嘛教と言ふことになつたものであらう。

二、喇嘛教の蒙古傳來

印度の佛教を母體として西藏に興隆した喇嘛教が蒙古と關係を持つたのは、已に元朝忽必烈(西紀一二六〇番——一二九四年)の時代に始まる、即ち忽必烈は西藏の軍事的征服が地勢の關係上殆んど不可能なるを知り、宗教を通じて西藏を懷柔せんとし當時最も有力であつた西藏薩迦寺の主僧叭克巴を招きて、之を國師とし、西藏に皈らしめては法王たるの位置を與へたのである、かくて藏蒙は次第に宗教的交通が開始せられた、此の頃の喇嘛教は凡て舊教紅教であつたが、權勢を得ると同時に次第に横暴となり、佛陀の教を去ること甚だ遠きものとなつたので、此處に元末明初の大宗教家喀宗巴の出現を見るに至つた、彼はアムド(現今の青海省塔爾寺のあるところ)に生れ西藏に出でゝ修行し、紅教に對して黄教と言ふ一新派を開創するに至つた、彼の二大

弟子は達賴、班禪の兩大活佛法王となつて代々西藏に君臨することゝなつたのである
が、丁度達賴の第三代頃には蒙古とは愈々深き關係を生じたのである、即ち第三代達
賴は遠く內蒙古を巡錫し、一般民家信仰を助長せしめたのである、又此の因緣に依つ
て第四代達賴が蒙古から出生することゝなつたり、外蒙方面にも初めて喇嘛教の寺院
が出來、又庫倫には大活佛哲布尊丹巴呼圖克圖が常在し蒙古地方の信仰の中心をなす
に至つたのである、その後喇嘛教は明清兩朝を通じ、蒙古に於て保護助長せられ拔く
べからざる國民的宗教となつたのである。

三、蒙古人の喇嘛教信仰

蒙古に於て喇嘛教が最も勢力を得たのは、何と言つても清朝時代である、喇嘛教の
興隆が清朝の政策であつたか、又蒙古人自身の宗教心を保護助成したのみであつたか
は別として、兎に角蒙古には喇嘛教と平原のみと言つても過言でない程である。

蒙古人の敬虔なる信仰狀態は一度足を此の地に入れば直ちに氣附くところである、

例へば何ものもなき一望千里の平原の眞只中に、奇しくも大廈高樓を誇つてゐるのは
喇嘛教寺院であり、其處に在住する何百何千の僧團は、此の稀薄な人口の蒙古人の各
家庭から大部分の男子を收容してゐることを見ても知れる、布教傳導に困苦缺乏に絕
えつゝ幾十年の歷史を有する、キリスト教の傳導僧も徒らに此の大殿堂を仰いで、浸
入餘地のなきことを託つのみである、又我々は途上五體投地の禮をなしつゝ幾百里を
遠しどせず、一身長づゝ聖地に向つて前進しつゝある巡禮者の姿を認むるとき、身に
粟せずにはゐられない、そして巡禮者のみならず、凡ての蒙古人が行住座臥常に六字
の眞言唵嘛呢叭彌吽 オン・マニ・パッドメ・フーンを唱へ、只管佛の慈悲にすがつてゐ
る有樣は我が念佛信者のそれに比すべきものがある、慈悲心ある彼等は殺生を極度に
嫌ふ、魚鳥卵獸を無暗に殺害採食せざるは勿論、蚤、虱、蠅の類まで殆んど捻殺するこ
とをしない、又喇嘛殊に高級喇嘛活佛に對する絕對的心服狀態は、已に生きた喇嘛に
對してではなく、文字通り生きた佛に對して批判することがない、我々もかゝる境地
にまでなり切ることが出來ればと常に羨望した程である、彼等の信仰は決して示唆や

彈壓によつて早急に左右せらるゝ如き薄弱なものではない。

四、蒙古に於る喇嘛教の現勢

かくの如く蒙古に於ては喇嘛教信仰は徹底されてゐるが、その勢力は地方によつて多少の相違はある。

外蒙に於ては一九二四年以來國號も蒙古人民共和國と改められ、信仰の自由に關してもソ聯國內の行方と全く同一となつた、卽ちソ聯の國內法で「ソ聯邦內の民衆は如何なる宗教を信ずるも自由であり、更にこれらの宗教に對して反對宣言をなすも自由である」と言つてゐる如く、外蒙に於ても明らかに宗教を彈壓すると言ふ文字は使用してゐないが、實際は喇嘛教恐怖時代を出現し、從つてその勢力も著しく制限されて來たのである、一九二七年頃外蒙地方を旅行した馬鶴天は、外蒙の喇嘛を十二萬人と言つてゐるが、一九三八年の調査では八萬に減少してゐる、然して此の割合は外蒙々人人口凡そ五十四萬人に望むれば二二%乃至一四%であり、尙他の諸外蒙に見られざる高率の割合を持つてゐる。

內蒙方面に於ては凡そ五萬一千人、人口三十萬とすればその割合は一七%と言つた有樣で、人口に對する割合は決して僅少ではない。

寺院の數も外蒙の二千七百餘ヶ寺に對して內蒙には一千餘ヶ寺、然かも寺院は經濟的には重要なる位置を占め、交易、商業據點となり又旅店ともなる。政治的には昔日の如き支配力はないにしても、然かも信仰上は或程度まで人心を左右してゐる。

文化的にも喇嘛及び喇嘛廟はその中心をなし、教育醫療に盡力してゐる、かく觀來るときは外蒙には八萬の道心堅固なる喇嘛が居り、內蒙には五萬一千の喇嘛が寺院を中心として居り、社會の各部門に亘つて重大なる位置を占めてゐる。

むすび

蒙古の喇嘛教は數の上からも、その他の點からも甚だ我國とは同じでない、蒙古人が單純であればある程しつくりと喇嘛教に把持せられ、迷信的にすらなつてゐると思

はれる、然し喇嘛教と雖もその發達した地方の種々不純なる地方色を除去すれば同じく佛教である。

將に起上らんとする蒙古は、政治、産業方面は着々として計畫實行せられ、萬遺漏なきことと思ふが、それと同時に精神立國が確定せられねばならぬ折柄、蒙古喇嘛教徒の責や將に重且つ大なるものがある。雖然支那佛教徒が日本佛教徒の指導援助を翹望してゐると同樣に、蒙古佛教徒はより切實に先進日本佛教徒との善隣を待望してゐることであらう、東亞の盟主日本の佛教徒たるもの緊揮一番よく彼等の實情に通じ、その期待に背かざらんことを期せねばならぬ。（本會主事橋本光寶）

日蒙佛教親和會經過

▲昭和拾參年九月廿九日　訪日視察團として郭爾卓爾札布氏（蒙古聯盟自治政府政務院畜産部長）團長のもとに廿四氏來朝、一行中迪魯瓦胡圖克圖、察汗格根、梅力更格根、魯明格根の四喇嘛あり、細川、橋本兩主事之を案内し、日本佛教各宗巨刹を參拜せしむ。時に日蒙佛教徒の聯繫並に將來蒙疆喇嘛の改善等に關し幾多の意見披瀝され、廸魯瓦胡圖克圖の如き、適當なる機關設置方を要請せり。

▲昭和拾參年九月　德王閣下（蒙疆政府首席）來朝の砌り、元蒙古軍中尉の故色勤札布氏亦來朝。

▲昭和拾四年三月廿七日　橋本光寶、故色勤札布、細川澄翠三氏會同。愈々日蒙佛教親和會設立計劃に從ふ。

▲昭和十四年參月廿八日　元蒙古軍顧問八ヶ年間蒙古民族を指導せる金川耕作中佐敦賀隊轉任の爲歸朝せらるゝや、前記三氏高鍋日統氏（日蓮宗蒙古開教監督）の紹

介により會見、五氏（金川、高鍋、橋本、故色勤、細川）多いに蒙古民族に呼掛け、文化工作上に於ける重大なる一部門たる宗教的信念の連絡提携の必須なるを益々痛感す。

▲昭和拾四年參月卅日　明和會中川吉太郎主事の好意的案内及び金川中佐の紹介狀により細川主事は參謀本部に樋口少將閣下を訪問、種々文化工作上の問題を指摘する。

▲昭和拾四年四月二日　橋本、故色勤、細川會同、準備着手す。同日蒙古聯盟自治政府文官視察團札拉嘎穆濟氏（蒙疆自治政府内務處長）外卅七氏來朝。三主事は鍛治橋ホテルに視察團を訪問、多いに快談賛同を受く。

▲昭和拾四年四月參日　細川主事は趣意書並びに各委員決定等日本文起草、同日故色勤札布主事蒙古文翻譯起草。

▲昭和拾四年四月六日　滿州國大使館訪問。三主事と同館日本留學生監督理事官烏雲達賴氏面會、賛意を得意嚮を訊く。

▲昭和拾四年四月拾貳日　蒙古聯盟自治政府參議長吳鶴齡氏秘書たる札奇斯欽氏を通じ吳參議長の賛意を受く。

同日細川主事日本文規約起草、故色勤札布主事同文を蒙文に翻譯。

▲尚昭和拾四年參月廿七日以後昭和拾四年四月拾貳日迄細川、橋本、故色勤札布三主事より各顧問、各評議員夫々書面若しくは面會により趣意を説明諒解を受けたり。

▲昭和拾四年四月拾貳日　細川主事は眞宗本派本願寺築地別院（築地本願寺）輪番增山顯珠氏に懇請、日蒙佛教親和會日本本部事務所を築地本願寺内に置くことの許可を受けたり。間も無く現輪番朝倉曉瑞氏就任せられたるを以て同樣許可を受けたり。

▲昭和拾四年四月貳拾壹日　本部に於いて第一回發起人懇談會を開催、大島豊、渡邊哲信（欠、委）百井政明、沖鳳亀、狩野獲隣、轉法輪公祐、額勤恒格、布施洪岳（欠、委）渡邊瑞巖（欠、委）久野芳隆（欠、委）結城令聞（欠、委）蒙太、橋本光寶、色勤札布、細川澄翠、松尾惠善、井上寛政、金子健藏諸氏會合左記事項を決定す

一、日蒙兩國本部設置の件
一、各役員就任の件
一、日蒙佛教親和會會長並びに副會長推薦の件（主事一任）
一、日蒙兩國本部正副部長推薦の件（主事一任）
一、規約制定の件
一、發會式の件

右五項目を決定、卽日右事項に基く關係書類の發送を終了せり。

▲昭和拾四年四月貳拾壹日　發起人會後午後六時より日比谷松本樓に座談會を開催。額勤恒格、色勤札布、蒙太、松尾惠善、細川澄翠、橋本光寶、金子健藏諸氏出席日蒙佛教に關する忌憚無き意見の交換を行ひ同筆早記を宗教日刊新聞、文化時報紙上を借りて發表せり。

▲昭和拾四年五月拾六日　細川主事は京都知恩院に喇嘛留學生廿氏を訪問、小林義道氏（蒙古留學生指導の碩德、淨土宗知恩院庶務部長）の指導下に專任指導者伊藤現芳氏の活躍狀況を視察し得、同氏の多大なる努力に依り留學生に本會趣意を說明せり。

▲昭和拾四年五月廿七日　滿州國錦州西吐默特旗長雲丹桑布氏を訪問、三主事より趣意を說明努力せらるゝ旨の贊辭を受く。

▲昭和拾四年五月貳拾八日　細川、橋本兩主事は蒙彊聯盟自治政府東京辨事處々長久光正男氏を訪問、這般の報告を爲す。

▲昭和拾四年六月拾日　眞言宗古義派靜岡縣清見寺田中淸純氏より橋本主事に對し蒙古大同市に日華密教支部設立の報告ありたり（本部淸見寺）

▲昭和拾四年七月四日　本會主事故色勤札布氏滿州國（歸國

▲昭和拾四年七月拾日　本會評議員大島豐氏（善隣協會主事）蒙古より歸朝せらる。

▲昭和拾四年七月拾五日　厚和市蒙古學院（蒙彊聯盟自治政府文官養成所）卒業生拾八氏は園長吾勤吉卜林氏、指導員長海治郎氏に引卒され來朝。同月貳拾日午後一

時築地本願寺見學に際し朝倉顧問の挨拶、輪法輪評議員細川橋本兩主事共に案内設明を爲す。

▲昭和拾四年八月貳拾參日　本會の熱心なる提唱により蒙古聯合自治政府參議會議長吳鶴齡氏は事務官札奇斯欽を滯同、同政府下將來の喇嘛教改革參考に資する爲に日本佛教視察研究を爲可く細川主事の案内により曹洞宗大本山總持寺を訪問本會顧問、同山監院孤峰智傑師と面會同宗教義及び社會施設を視察、更に日蓮宗大本山池上本門寺に至り本會顧問大僧正酒井日愼師に面接、監督山本日偉僧正より同宗教義社會施設を聽取せり。

▲昭和拾四年九月一日　蒙古、察南、晋北三政府合同にて新成權樹立せられ蒙古聯合自治政府參議長札奇斯欽兩氏を同目的のもとに井章二閣下に對し祝電を發せり。

▲昭和拾四年九月四日　細川、橋本兩主事は吳參議長札奇斯欽兩氏を同目的のもとに案内して眞言宗豊山派別格本山護國寺を訪問、本會顧問僧正佐々木教純師に面接

更に淨土宗大本山增上寺に至り監督渡邊眞海師と會見、同樣教義並に社會施設を夫々聽取せり、かくて親切にして鄭重なる各山の會合に參議長も頗る感激せられ居り、將來日本佛教に負ふ處頗る大なるものあるべきを確言せられたり。

▲昭和拾四年九月四日　本會東京本部長西本願寺顧問渡邊哲信氏及び吳參議長は本會本部築地本願寺に於いて會見、兩國佛教提携の要談を遂げたり。

▲昭和拾四年九月廿貳日　豫て本會に對し其の斡旋方を申込中なりし滿洲國錦州省吐默特左旗王府公署長本會主事雲丹桑布氏より派遣せらるべき蒙古喇嘛僧留學生四氏確定の趣を通告せられたり依つて細川、橋本兩主事より各宗へ交涉の結果派遣學生を左の如く割當て兩宗本山に於いて進んで訓育せらるる事となれるは本會の成立に鑑み其の實踐上多大なる意義を有するものとす。

陶格特栢雅、興格、（日蓮宗總本山身延久遠寺囑、斡旋日蓮宗宗務院）

岳恩丹、恩知吉欠郎、（新義眞言宗豊山派別格本山護國寺囑同宗務所斡旋）

四喇嘛僧四氏は何れも喇嘛階級に於ける上層部に屬し佛爺喇嘛ホビルガン即ち轉

生者として各々歸依者を有し一般喇嘛と同斷の比にあらざるは注意すべく特に頭腦明拆なるは雲丹王の證明するものなり。滯邦留學研究二ヶ年兩大本山訓育の結果は期して俟つべきものありと確心す。（昭和拾四年十一月迄記要）（細川記）

本會費用報告

一金貳拾圓也　酒井日愼殿（出版費一部）
一金貳拾圓也　佐々木教純殿（出版費一部）
一金貳拾圓也　沖鳳亀殿（出版費一部）
一金壹百貳拾貳圓也　細川澄翠殿（創立費昭和十五年十一月迄雜費）
一金貳拾五圓也　橋本光寶殿（昭和十四年十一月迄雜費）

（橋本記）

滯邦喇嘛留學生一覽表

淨土宗知恩院招致

姓名	年齡	原籍	駐在召廟
（滿洲國）			
葉喜博爾勤	二七	濱江省、郭爾羅斯後族、義順德屯	郭爾羅斯後族、嵩齡寺
郤吉敖斯爾	二六	興安西省、巴林右翼旗、大板區	巴林右翼大板區、古力古台廟
蘇達那慕札本澡	二六	錦州省、泊力各村道寶多屯	錦州省吐默特左旗第五區、普安寺
棍嘎札卜	二六	錦州省、吐默特右旗、禮治嘎查大黑山瓦房	吐默特左旗、仁愛嘎查下附、惠寧寺
大格瓦敖司	二五	興安西省、西新巴旗、東努圖克第二佐	興安北省、パローンシャランゴ廟
敖力布好札三	二四	阿魯科爾沁旗、興隆毛道	阿魯科爾心旗、王子廟
波棍札巴	二四	熱河省、溶喇沁中旗、寧城縣黑力河頭道尖子	熱河省外八廟、普寧寺
滾哲	二四	龍江省、依克明安旗	依克明安旗、大智寺
海福泉	二二	錦州省、阜新縣蒙古三區荷江屯	奉天市、皇寺

義禮格圖	二二	興安南省、東科後旗	
達格巴	二三	興安北省、東新巴旗、西努圖克第三佐	
常生	二一	熱河省、溶剌沁中旗、平泉北二十家子	
白音那木爾	二一	錦州省、彰武縣陳蘇魯克旗	
好思巴雅爾	二〇	興安西省、科爾沁左翼中旗、溫都爾府屯王	
清海加卜	一八	錦州省、彰武縣陳蘇魯克旗	
烏勒圖布和	一八	錦州省、阜新縣東土默旗	
阿固拉	一七	錦州省、蘇魯克旗玄女窩堡	
（蒙古聯盟自治政府）			
丹巴道爾吉	二二	土默特旗、協部那拉村	
圖們多原吉	二二	土默特旗、打爾加村	
仁沁	二二	土默特旗、胡拉格旗村	
桑戛	一九	土默特旗、協部拉材	
綱蘇和	一九	興安南省、東科後旗、馬挼子屯	

		東科後旗、第五奴圖克第二嘎查努和特愛里
		阿爾山廟
		熱河外八廟、殊像寺
		奉天市、皇寺
		科爾沁左翼中旗、第一奴圖克巴彥塔拉
		奉天市、皇寺
		同
		同
		同
		厚和市、舍力圖召僧徒
		同
		同
		同
		厚和市、廣福寺

眞言宗高野山招致

興亞寮教學院二年生

滿洲國吉林省、郭爾羅斯前旗、阿拉汗廟　日本僧名　龍寶　頂嘎倣爾布　二十六歲

仝　旗　巴汗廟　同　同　蓮寶　巴達駐巴薩爾　十九歲

以上二名昭和十三年四月六日來山入學

興亞寮教學院一年生

仝	旗	第四努圖克巴汗廟	同	智法　圖木爾博勤特　廿五歲
仝	旗	第一◎圖克、◎◎街廟	同	智教　麥達立札布　廿三歲
仝	旗	第三〇圖克新廟	同	光賢　嘎拉僧素立◉　十八歲
仝	旗	仝廟	同	日賢　嘎拉僧桑尼瑪　廿三歲

以上四名昭和十四年五月十七日來山入學

計六名　現在學生

397
300

昭和十四年十二月二十五日印刷
昭和十四年十二月三十一日發行

不許複製

（非賣品）

編輯兼發行人　東京市京橋區築地本願寺内
日蒙佛教親和會主事
細川澄翠

印刷所　東京市芝區金杉濱町十二番地
平野印刷所

印刷者　平野金三郎